

慢性的な人手不足に悩む建設業界。原因のひとつに、辛く厳しいといった圧倒的なイメージの悪さがあります。しかし我々は今回の連携事業によって、これまでに築いた教育機関との信頼関係を、揺るぎないものにしました。この活動が広く建設業界のイメージアップに繋がっていくことを確信しています。

工業高校に向けた出前授業「行くぜ！電気塾」。この立案は、創立 30 周年記念事業オレンジリボンライトアップの施工体験がきっかけでした。将来有望な生徒が迷わず進んでいけるようにと、学校に我々の想いを伝え、生徒達の未来について連携していく事で一致したのです。

札幌市内の工業高校電気科、約 600 名の生徒を対象にしたアンケートによると、就職活動におけるその選択には、母親の理解が不可欠という結果がありますが、学校からの提案により、保護者向け説明会を開催。青年部と同世代の親同士ということもあり、これまでよりさらに 1 歩踏み込んだ内容の意見交換を行うことが出来ました。

先生⇒保護者⇒生徒と繋がった 1 本のラインは、「行くぜ！電気塾！」によってさらに強い絆で結ばれたのです。電気塾に参加した生徒は最後に「僕も電気屋になりたい！」と言ってくれました。そして全員で未来を向いた時、まだまだやれる可能性をそこに感じたのです！

※動画 25 秒（嶋川部長インタビュー）

仕事の魅力。改めて自らに問いかけた時、職業体験型プログラム「電 z a n i a」を通じて、電気工事業界の楽しさを伝えたいと、青年部の単独開催にこぎつけました。

「見て」「聞いて」「触れる」機会を作り出すことを目的として、生徒自らが電気工事技術者に扮し、コミュニケーション～プランニング～施工。3つのブースに分かれて、一連の業務・行程を楽しみながら体験できるよう計画。実務に則した内容にすることで、伝える側にも様々な気づきをもたらし、我々の仕事内容がより深く伝わると考えました。彼らはどう感じたのでしょうか？

※動画 20 秒（高校生インタビュー）

ご覧のとおり、近い将来、男女を問わず電気工事士誕生に繋がっていくという事を確信し、いつかきっと現場で再会しましょうと全員に約束して電 z a n i a を閉会しました。

我々の活動はHPやSNSを使って、いつもスピーディに情報発信しておりますが、今回フェイスブックを見てご連絡いただいた北海道科学大学とのコラボ企画を現在、実現に向けて検討を進めています。

官民公が一体となって進めている、電気に携わる人材の発掘・育成。今後我々がそのイニシアチブをとって、ますます電気工事業界を発展させていく。そんな強い気持ちをもって、札幌協青年部のチャレンジはこれからも続いていきます。ご清聴ありがとうございました。